

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人
紫波町社会福祉協議会

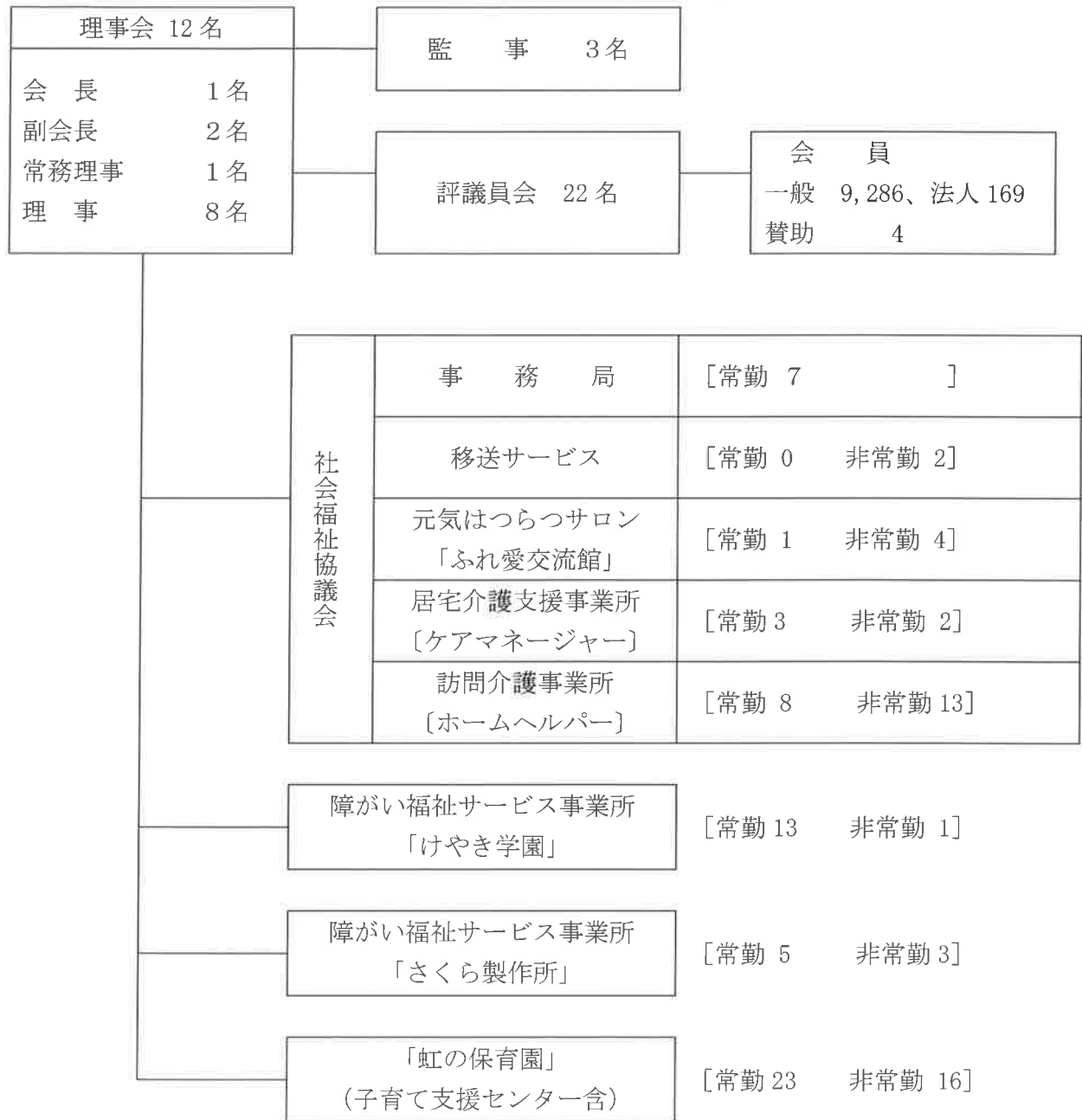
令和3年度

紫波町社会福祉協議会 事業報告書

第1 法人運営

1 組織

令和3年度組織図（3月末現在）



職員総数

常勤 60 非常勤 41 計 101 人

2 会 費

(1) 会 費

・個人会費 1,000 円 ・法人、賛助会員 3,000 円

(2) 実 績

・個人会費 9,285,500 円 ・法人会費 673,000 円 (169 法人)
 ・賛助会費 75,000 円 (4 団体) ・合 計 10,033,500 円

第2 福祉基金保有高等

前期末残高	当期取崩額	当期積立額	当期末残高
56,007,785 円	0 円	535,580 円 〔 寄付金 534,460 利息配当等 1,120 〕	56,543,365 円

福祉事業への寄付金 499,191 円

第3 会議・監査会の開催状況

1 理事会 理事定数 12 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第1回	5月20日	10 (3)	・令和2年度事業報告、決算 ・令和3年度補正予算(第1号) ・定款の一部変更 ・諸規程の一部改正 ・評議員候補者の推薦 ・評議員選任解任委員会の招集 ・定時評議員会の招集
第2回	12月14日	9 (3)	・諸規程の一部改正 ・令和3年度補正予算(第2号) ・評議員会の招集 ・歳末たすけあい運動の配分
第3回	3月9日	決議の 省略	・諸規程の制定 ・諸規程の廃止 ・諸規程等の一部改正 ・介護、児童サービス拠点における積立 ・令和3年度補正予算(第3号) ・役員等賠償責任保険契約 ・令和4年度事業計画、予算 ・評議員会の招集 ・事務局長、保育園長の選任 ・役員の推薦

2 評議員会 定数 22 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第 1 回 定時評議員会	6 月 11 日	16 (1)	・ 令和 2 年度事業報告、決算 ・ 令和 3 年度補正予算(第 1 号) ・ 定款の一部変更 ・ 定款細則一部改正 ・ 諸規程等の一部改正 ・ 役員の選任について
第 2 回	12 月 22 日	19	・ 諸規程等の一部改正 ・ 令和 3 年度補正予算 (第 2 号)
第 3 回	3 月 16 日	決議の 省略	・ 諸規程等の一部改正 ・ 介護、児童サービス拠点における積立 ・ 令和 3 年度補正予算 (第 3 号) ・ 役員等賠償責任保険契約 ・ 令和 4 年度事業計画、予算 ・ 役員の推薦について

3 評議員選任解任委員会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 25 日	・ 評議員の選任

4 監査会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 10 日	・ 令和 2 年度 1 月～3 月事業内容 ・ 令和 2 年度 1 月～3 月定例監査 ・ 令和 2 年度決算監査
第 2 回	7 月 26 日	・ 令和 3 年度 4 月～6 月事業内容 ・ 令和 3 年度 4 月～6 月定例監査
第 3 回	10 月 25 日	・ 令和 3 年度 7 月～9 月事業内容 ・ 令和 3 年度 7 月～9 月定例監査
第 4 回	2 月 21 日	・ 令和 3 年度 10 月～12 月事業内容 ・ 令和 3 年度 10 月～12 月定例監査

5 地域福祉団体との懇談会等

会議名	開催月日	出席者	内 容
町内社会福祉法人 連携ネットワーク推進協 議会	4月19日	4	・事業と決算の報告（事業は買物支援） ・共同実施連携事業と予算 （書面議決）
たんぽぽ食堂の開催	4月21日 から6回	延 31	・こども食堂を地域の方々とともに安心 感がある居場所の提供を目指して中央 公民館で開催
地域福祉活動計画 策定委員会開催	2月17日	書面 開催 22	・計画見直し作業 事業ニーズを把握し、地域の担い手育 成を進め新たな取組みを目指しました
事業継続計画（BCP） 策定作業	8月7日 9月3日 から6回	33 スタッフ24 延 155	・計画策定に係る勉強会（講師4名） BCP 策定、災害後各セクターの初動対応 ・作業会議（グループワーク） 既存事業、業務の優先順位 災害ボランティア運営、災害時受援計画 BCP 新型コロナウイルス感染症対策

6 BCP計画策定に伴う他団体との協力体制推進

(1) 災害時支援協定

- ① 災害時におけるレンタル機材提供協定
11月29日（月） 株式会社アウトレジャー
- ② 災害ボランティアセンター運営への人的・物資等支援協定
12月15日（水） 県央8社協と盛岡青年会議所と
- ③ 災害時におけるボランティアセンター設置、運営等に関する協定
12月24日（金） 紫波町
- ④ 災害時支援物資保管、提供に関する協定
3月4日（金） 株式会社寿広
- ⑤ 車イス体重測定からはじまる健康づくりと発電機
7月6日（火） テレビ岩手24時間テレビ
- ⑥ ジャパンゴルフツアー選手会復興支援・福祉活動車両贈呈
8月5日（木） ジャパンゴルフツアー選手会

第4 福祉活動推進事業

1 広報

(1) 社会福祉協議会広報紙「社協だより」の発刊

社会福祉協議会事業の紹介の他、福祉情報を提供しました。

- ・発行回数 6回（全世帯と法人会員に配布）

(2) 「福祉声のおたより」の発行

朗読ボランティア「銀の鈴」の協力を得て、広報紙をCDやカセットテープに録音し、視覚障害者へ提供しました。

- ・録音項目 町広報、町議会報、社協広報他町内関連文書
- ・会 員 7名
- ・利 用 者 10名

(3) SNSの活用

事業予定と報告 令和3年6月から運用

- ・フォロワー数 191名
- ・投稿数 120件

2 金婚を祝う会

長年苦楽を共に歩んできた夫婦の結婚50周年を祝し「金婚を祝う会」を開催しました。

- ・期 日 11月21日（日）
- ・場 所 ラ・フランス温泉館 ホテル湯楽々
- ・参 加 者 3組、6名
- ・記念写真・民謡、50年の思い出ビデオレター

3 福祉用具の貸出

(1) 車椅子貸出（保有14台）

歩行困難者の日常生活支援のため、6ヶ月間を限度に車椅子を無料で貸出しました。

- ・貸出延数 25台
- ・貸出期間 1日2件、2～7日15件、8日～3ヶ月15件、～6カ月 3件

(2) 福祉教育用具貸出

学校の福祉教育推進のため、福祉用具を無料で貸出しました。

- ・貸出延数 高齢者疑似体験セット（保有19セット） 1回 古館まちづくりの会

(3) キャップハンディ体験

町内小中学校福祉学習の際に、車いす体験を職員が出前講座を行いました。

- ・出前講座 車いす・白杖体験 5回 日詰、西の杜、赤石、二中
- ・福祉講座 金濱朋美氏 3回 日詰、西の杜、赤石

第5 地域福祉活動の推進

1 日常生活自立支援事業の支援

障がい者や高齢者の金銭管理を支援しました。

- ・利用者数 15 名（3 月末現在）
- ・生活支援員（紫波町担当） 3 名（週 1 ～ 2 回訪問）

2 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金（県社協委託事業）

資金名		件数	貸付総額	貸付限度額
当期決定貸付総額		6 件	2,604,000 円	
内 訳	緊急小口資金	5 件	328,000 円	100,000 円
	福祉資金	0 件	0 円	対象経費による 50 万～580 万円
	総合支援資金	0 件	0 円	単身 15 万、2 人～20 万
	つなぎ資金	0 件	0 円	必要最小限
	教育支援資金	1 件	2,276,000 円	

※前年度 11 件 8,952,000 円

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響による生活福祉資金（県社協委託事業）

資金名		件数	貸付総額	貸付限度額
当期決定貸付総額		50 件	13,700,000 円	
内 訳	緊急小口資金	29 件	5,350,000 円	
	総合支援資金	13 件	4,000,000 円	
	総合支援資金延長	4 件	2,400,000 円	
	総合支援資金再貸付	4 件	1,950,000 円	

※前年度 77 件 21,380,000 円

(3) たすけあい金庫

緊急出費を要し、援護の必要がある方を対象として資金貸付を実施しました。

- ・利用限度額 50,000 円
- ・当期利用状況 0 件

3 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）生活困窮相談支援事業【継続事業 町補助】

岩手県社会福祉協議会と連携し相談窓口対応を行い、継続的支援を要する場合には、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を示し、複合的な生活課題に対して町を含めた関係機関と連携し、個人や世帯への支援を行いました。

主な支援内容は、相談、同行支援（病院、銀行、不動産等）、食糧支援等です。

(1) 相談内容と件数 ※一人で複数相談あります。

- ・相談件数 124 件 （世帯 22 世帯 初回相談 11 人、任継続相談 67 人）
- ・延相談件数 収入・生活費 23 件、仕事 3 件、住まい 8 件、債務税滞納 10 件
生保申請 21 件、健康通院療育 42 件、片付 4、その他 13 件

(2) 出前相談の実施

身近に相談できる機会として、オガールの情報交流館を会場に『ふれあいカフェ』を開催しました。

- ・日 時 令和 3 年 6 月～4 年 2 月まで 9 回開催
- ・場 所 なんバザホール、イオンパースナール古館店 ・相談者 26 名

(3) ふれあいミーティングの開催

個人や世帯に対し継続的に支援を行うため、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を、町を含めた関係機関と連携し情報共有を図り支援を行いました。

- ・令和元年 4 月から 毎月 1 回開催 ・町総合福祉センター
- ・町、県社協、町社協（CSW、SC）、障害者基幹相談支援センター（矢巾町）、図書館司書、コミュニティーナース等

4 地域包括支援活動事業（生活支援員）【継続事業 町委託 650 千円】

町では、介護保険による高齢者への生活支援サービスの対象者は増えることが見込まれることから、関係する団体や地域の方とのネットワークを構築するとともに、地域で需要が見込まれる高齢者向けサービスを支える新たな取り組み構築を目指しました。

(1) 取り組み

いこいの家やサロンに出かけ、日常の暮らしぶりを聴いています。その中で生活の知恵や工夫を教えて頂いた『お宝』をまとめた『まちのあつまりっこ』を作成し、紫波中央駅待合施設や公民館に配りました。

(2) 町主催シンポジウムへ生活支援コーディネーターとして参画

～つながりはコロナに負けない～お宝事例発表会

- ・日 時 令和 4 年 2 月 19 日（土）
- ・場 所 紫波町情報交流館 ・参加者 無観客開催
- ・講 師 特定非営利法人 全国コミュニティーライフサポートセンター
地域支え合い推進センター 主幹 橋本泰典 氏

5 法人連携等による地域福祉活動支援事業

【継続事業、法人拠出】

地域福祉活動の中で見つかった生活課題に対して、地域での新しい支え合いを推進するため、解決に結びつく専門家・社会福祉法人・ボランティアと連携をし関わるネットワーク形成を図りながら新たな取り組みを行いました。

(1) 町内法人連携による共同実施推進事業

① 買い物等支援事業

- ・日 時 令和3年4月から1月まで 第一水曜日 延べ10回実施
- ・車 両 5台（大樹会・紫波会・爽生会は各1台、社協2台）
- ・利用状況 登録者22名 利用実績 延べ181名
利用者は町中央部から離れた地域の方が利用しています。
- ・実施内容 盛岡南ショッピングセンターで買い物50分

② 就労準備支援ボランティア事業

一般就労を目指す中間的就労支援はコロナ禍で事業は出来ませんでした。

(2) たんぽぽ食堂及びフードパントリーの開催

ひとり親家庭等の子どもを対象に、地域の方々とともに安心感がある居場所を提供することで、地域全体で子どもたちを見守る・育てるきっかけになることを目指して開催いたしました。

- ・開催日等 4月～3月まで10回
- ・会 場 紫波中央公民館
- ・内 容 県主催の紫波町学習支援利用者と家族へ食事や食材を提供
- ・参 加 者 主に日詰地区 延べ134世帯346名
- ・財 源 寄付金と協力金486,831円
- ・協 力 者 民生児童委員等11名

6 高齢者安否確認システムの利用推進

【県社協事業】

独居高齢者を対象に、電話による安否確認システムの利用を推進しました。

- ・利用実績 1件

第6 共同募金配分、歳末たすけあい運動事業

1 地域交流イベント「ふれあいフェスタ」 【継続：共同募金 314,944 円】

障がいのある 11 歳から 69 歳までの方が作製した 20 点の作品を展示しました。

- ・実施日 10 月 15～16 日（金土）10：00～14：00
- ・場所 オガールプラザ内「紫波町情報交流館」
- ・展示作品 障がいのある 11 から 69 歳までの方が作製した 20 点の作品を展示。
絵や書の平面作品には額を飾り付けたり、Tシャツ等の立体作品もあり工夫を凝らしていました。その他に町内福祉団体や事業所の紹介パネルや紫波総合高校の協力で親の会の家族写真、赤沢地区在住の佐々木美香さんの絵画展も行いました。
- ・表彰 岩手県共同募金会長 1 団体、 町社会福祉協議会長 3 名
ふれあいフェスタ実行委員長表彰 5 名

2 福祉団体等への活動支援 【1,235 千円】

(1) 事務を受託している団体 (7 団体)

ボランティア連絡協議会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、身体障がい者福祉協会、母子寡婦福祉協会、更生保護女性の会、手をつなぐ親の会

(2) 子育て支援 【60 千円】

就学前児童の子育てひろば（子育てサロン）を開催しているボランティアグループへ活動費の助成を行いました。

- ・活動助成金 3 ひろば総額 60,000 円

(3) 行政区長協議会等への支援 コロナ禍により支援なし 【0 千円】

3 赤い羽根共同募金

(1) 募金運動

- ・運動実施期間 10 月～12 月
- ・募金実績額 6,209,374 円

(2) 福祉支援事業助成（1 件 5 万円限度）

- ・決定団体数 12 団体
- ・助成金額 534,000 円

(3) 社会福祉協議会が行う事業へ助成

- ・事業数 4 事業 ふれあいフェスタ、いこいの家、社協だより
障害者団体等活動への助成
- ・助成金額 3,922,926 円

4 歳末たすけあい運動

低所得世帯や母子・父子世帯や常時介護を要する方に、義援金を配分しました。

- ・運動実施期間 10月～12月 ・募金実績額 4,948,208円
- ・配分額 4,018,000円
- ・配分内訳

区 分		世帯・人員	単 価	金 額
要保護世帯	高齢者・母子等世帯	296世帯	11,000円	3,256,000円
常時介護を 要する個人	寝たきり・認知高齢 者、重度心身障害者	127人	6,000円	762,000円

第7 紫波町受託事業

1 無料相談事業「ふれあい相談所」

住民の抱えている課題解決に援助、協力するため、無料相談所を開設しました。

- ・実施日 毎月第1水曜日、 弁護士毎月第3水曜日
- ・場 所 福祉センター団体室
- ・相談員 人権擁護委員7名、弁護士1名
- ・件数内訳

生 計	年 金	職業・生業	住 宅	家 族	結 婚
5	0	0	1	6	1
離 婚	健康・衛生	医 療	精神衛生	人権・法律	財 産
4	1	0	0	37	8
事 故	児童・母子保健	教育・青少年	心身障害者	母子・父子福祉	高齢者福祉
0	0	1	0	1	0
苦 情	日常生活自立支援	その他			合 計
0	0	0			65

2 移送サービス

車椅子利用者等で一般の交通機関の利用が困難である高齢者や障がい者（町認定者）を対象として、病院や福祉施設等へ移送する有償のサービスを実施しました。

- ・利用登録者数 57名
- ・利用延べ回数 509回
- ・運転手 3名
- ・専用車両 3台

3 高齢者サロン「いこいの家」助成事業

町内のひとり暮らし老人や老夫婦世帯の孤独感解消や健康保持を目的に、ボランティアが実施する高齢者サロン事業「いこいの家」に、補助金を交付しました。

- ・交付額 1回3,400円（財源内訳 町2.4千円、社協1千円）
- ・地区別開催状況

日 詰	古 館	水 分	志 和
8箇所 9回	4箇所 11回	7箇所 15回	12箇所 56回
赤 石	彦 部	佐比内	赤 沢
4箇所 4回	7箇所 9回	4箇所 9回	6箇所 10回
長 岡	合 計		
6箇所 12回	58箇所 135回		

4 高齢者ふれあい交流会

65 歳以上の一人暮らし老人及び共に 75 歳以上の二人暮らし世帯を対象に、次の事業を実施しました。

(1) 日帰り温泉旅行はコロナ禍により実施しません。

(2) 配食サービス 毎週金曜日に昼食弁当をボランティアが配布しました。

・利用者	42 名 (3 月末現在)	・利用者負担	1 食 300 円
・実施回数	52 回	・配食総数	1,881 食
・受託料	507,870 円	・利用者負担	564,300 円
・事業費	1,269,152 円	・事業者支払	957,300 円

5 三障がい者スポーツ交流会

障がい者の体力増強、交流を目的に、ウォーキングサッカーをサンビレッジ紫波で行いました。

・開催日	令和 3 年 12 月 4 日	・参加者	18 名
------	-----------------	------	------

第8 ボランティアセンター事業

1 配食ボランティア

65 歳以上一人暮らしや、概ね 75 歳以上の夫婦世帯におかずを届けながら見守りの安否確認も行いながら、年間 52 回昼食配食のボランティア活動を行いました。

・利用者 43 名

(日詰 1、古舘 5、水分 3、志和 2、赤石 17、彦部 2、佐比内 6、赤沢 2、長岡 5)

・ボランティア登録人数 37 名

2 高齢者サロン「いこいの家」ボランティア

各地区の「いこいの家」運営に、ボランティアとして携わりました。

・お世話延べ人数 483 名

・開催回数 135 回 ・利用者総数 1,700 名

3 ボランティア活動保険加入状況（合計 1,109 名は前年比+19 名）

区分	団体加入	個人加入	加入者計
基本タイプ	25 団体 1,062 名	7 名	1,069 名
天災タイプ	0 団体 0 名	0 名	0 名
行事保険タイプ	2 団体 40 名	0 名	0 名

4 フードバンクへの協力

町内に設置された食品回収ポストへの協力食材を、これまでに 6 回フードバンク岩手（盛岡市）へ届けております。

第9 職員研修

1 紫波町社会福祉協議会職員研修

(1) 実施日時 11 月 26 日（金）午後 6 時 30 分から ・参加者 46 名

・内 容 「福祉の職場でのコンプライアンスを考える」

・講 師 特定非営利活動法人 紫波さぷり 理事長 細川 恵子氏

(2) 実施日時 3 月 25 日（金）午後 6 時 30 分から ・参加者 61 名

・内 容 令和 4 年度事業計画等について 小田中事務局長

就業規則等について 佐藤主任主査

事業継続計画（BCP）について 作山主任主査

第10 町からの新型コロナウイルス感染予防対策補助について

1 虹の保育園 2,305,000 円

① 町 乳幼児トイレエアコン設置 2 台 1,960,000 円

② 町 職員トイレ便器 2 台 345,000 円

令和3年度

介護事業報告書

1 介護事業の状況

介護が必要な高齢者及び障がい者が、住み慣れた自宅で安心して暮らせるように、利用者自身が個々に持っている力を引き出し、その力を支え生かしながら各種の支援・介護を行いました。

2 居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

介護保険において要介護認定を受けた方の介護サービス計画（ケアプラン）の作成、見直し及び介護サービスに関わる連絡・調整等を実施しました。

- ・利用者数（3月実績） 179名 要支援 20名含む。（前年度174名）
- ・介護支援専門員数 5名（前年度6名）
- ・総収入額 31,550,300円（前年度比+2,189,020円）
- ・令和3年度に3年に1回の報酬改定が行われ1.8%報酬単価が上がりました。

3 訪問介護事業（ホームヘルパー派遣）

要介護認定者（1～5）と要支援者（1・2）に加え、それに準じた方（事業対象者）に対しても訪問介護サービスを提供しております。

平成31年4月から、勤務シフト作成ソフトとスマホを活用したことで、勤務日程と勤務内容報告等を紙媒体から電子媒体保存となり業務効率が改善されました。

・訪問介護利用実績

（単位：人、回、時間、千円）

年 度 区 分		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
実利用者数	事業対象者	—	1	0	1	1	0
	要支援1	6	1	1	1	1	1
	要支援2	14	11	11	6	12	8
	要介護1	29	24	24	38	28	32
	要介護2	23	13	23	24	21	21
	要介護3	18	17	11	17	12	12
	要介護4	7	7	6	4	6	5
	要介護5	4	8	1	2	2	4
計		101	82	77	93	83	83

派遣回数	身体介護	6,940	8,010	6,685	5,185	6,669	5,984
	生活援助	4,286	3,543	2,046	1,298	1,169	868
	身体・生活	1,997	2,361	2,698	3,007	2,485	2,231
	介護予防	346	123	0	0	0	0
	現行相当	—	420	649	510	739	534
	計	13,569	14,457	12,078	10,000	11,062	9,617
派遣時間	身体介護	4,444	5,250	4,770	4,060	4,914	4,103
	生活援助	4,184	3,603	2,048	1,366	1,191	908
	身体・生活	2,790	3,163	3,630	4,147	3,332	2,069
	介護予防	1,334	507	0	0	0	0
	現行相当	—	542	756	555	554	518
	計	12,752	13,065	11,204	10,128	9,991	7,598
収入額 (介護報酬)		44,050	48,068	41,390	39,279	41,463	35,322

- ・事業費 35,322,030 円（前年度比 △6,141,845 円）
- ・平成 31 年 4 月から特定事業所加算（10%）3,202,002 円を含みます。
- ・介護予防サービスは、平成 29 年度から現行相当サービスとなりました。
- ・令和 3 年度に 3 年に 1 回の報酬改定が行われ 0.5%報酬単価が上がりました。

4 障害者居宅介護事業（ヘルパー派遣）

障害者総合支援法における利用者へ居宅介護サービスを提供しました。

- ・利用実績 (単位：人、回、時間、千円)

区 分 \ 年 度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度
派遣対象者数	18	22	18	17	19	16
派遣回数	2,271	2,640	2,549	2,756	2,658	2,112
派遣時間	2,271	2,110	1,984	2,206	2,069	1,511
自立支援費収入	7,538	7,266	6,471	7,178	7,236	5,004

- ・事業費 5,004,128 円（前年度比 △2,232,712 円）
- ・令和元年 10 月から特定事業所加算（10%）454,920 円を含みます。
- ※一日に 3 回かつ 365 日訪問していた利用者が施設入所した他、他の利用者も利用時間の減があり減収となりました。

5 障害者外出介助事業（ガイドヘルパー派遣）

【継続事業 町委託】

町認定の障がい者を対象として、ガイドヘルパーを派遣し、外出介助を実施しました。

- ・利用者数 4 名（前年度 3 名）
- ・派遣回数 116 回（前年度 67 回）
- ・派遣時間 169 時間（前年度 129 時間）
- ・事業費 254,925 円（前年度比 +65,175 円）

6 基準緩和訪問型サービス（ホームヘルパー派遣）

介護保険要支援に準じ、町認定者チェックリストで判定された高齢者を対象に、週1回ホームヘルパーを派遣してきました。平成29年から事業を基準緩和型サービスとして継続し、週1回だった利用回数が平成30年7月からは週2回まで認められています。

・利用実績

(単位：人、回、時間)

区分 \ 年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
派遣対象	5	20	21	23	25	21
派遣回数	316	417	1,117	1,238	1,377	1,172
派遣時間	299	308	837	922	1,047	879

・受託金額 2,330,136 円（前年比△395,585 円） 派遣対象者は年度末の実績

・事業名 29年度から基準緩和訪問型サービス、28年度までは「生活指導員派遣事業」

7 緩和型訪問かいご者養成研修

【継続事業 町委託】

学んで実践！！介護講座

・日 時 3月1日～2日（火水）

・会 場 オガール

・主 催 紫波町

・参加者 9名

・内 容 コミュニケーション技術、事故防止・緊急対応、生活支援技術

講師は紫波町職員、数カ所の介護サービス事業所。社協からはヘルパー4名で対応しました。

8 元気はつらつサロン「ふれ愛交流館」

【継続事業 町委託】

介護保険要支援者とそれに準じた高齢者（町認定者）を対象に実施しました。

・開設日数 188日（火曜日～金曜日）（前年度173日）

・開設場所 福祉センター

・登録者数 28名（3月末現在）（前年度34名）

・延べ利用者数 1,368名（前年度△253名）

・実施内容 健康管理、趣味創作、給食、季節行事他

・事業費 6,724,965 円（前年比△4,037,241 円）

令和2年度は送迎車両購入費 3,663,438 円含む。

収入

町受託金 4,934,000 円

利用者負担金 1,188,580 円 合計 5,922,580 円

支出

人件費 4,626,363 円

事業費 2,098,602 円 合計 6,724,965 円

差引 △802,385 円

虹の保育園 事業報告書

令和3年度は、コロナ感染症対策の中で当園の保育の在り方や内容を常に考える年でした。その中で、子どもたちの明るい表情や楽しそうな声、園庭を駆け回る元気な姿、そして、保護者の方の理解と協力、地域の皆様の温かい声は、保育園にとって何よりも支えとなりました。今後も、子どもたちが一日一日を安心して楽しく有意義に過ごすことのできる場として、子どもと共にある保育、保護者と共に進める保育を、職員一同実践してまいります。

4 月	1 日 2 日 5 日	辞令交付式 入園式 進級式
5 月	7 日 15 日 21 日 25 日 24、31 日	交通安全教室 野菜苗、種植え 5 歳児クラス保護者交流会 田植え体験（5 歳児） 内科健診（全園児前期）
6 月	1 日 22 日	交通安全教室 歯科健診（全園児前期）
7 月	3 日 10 日	夏まつり（3，4，5 歳児） 令和 4 年度職員採用試験
8 月	7 日 26 日 29 日	ことばの教室出前講座 令和 3 年度就学児童ことばの検査 岩手県キッズサッカー教室（5 歳児）
9 月	15 日 25 日 28 日 30 日	岩手県保育指導監査受検 運動会（3，4，5 歳児） 運動会ごっこ（0,1,2 歳児） 稲刈り見学
10 月	4,18 日 15 日	内科健診（全園児後期） 七五三宮参り（5 歳児）
11 月	4 日 27 日 29 日	歯科健診 令和 3 年度発表会（3，4，5 歳児） 個人面談（3 歳児）～12 月 7 日
12 月	1 日 24 日	保育実習（1 名）11 日迄（10 日間） クリスマス会

1 月	14 日 15 日	小正月（みずき団子） 親子陶芸教室（5 歳児）
2 月	2 日 3 日	味噌作り（5 歳児） 節分（豆まき）全園児
3 月	3 日 4 日 19 日 22 日	ひな祭り 5 歳児お別れ会 卒園式 新年度準備会議

2 保育業務実施状況

子ども子育て支援新制度において、保護者の保育希望理由、希望必要量により、市町村の給付認定（1～3 号）を受け、利用をすることとなっている。当園は、「保育所」である為、2 号認定（3～5 歳）3 号認定（0～2 歳）の保育を実施しました。

（1）児童数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
定員	12	18	18	20	26	26	120
4 月	8 (6)	18 (17)	23 (20)	22 (21)	24 (26)	29 (26)	124 (116)
10 月	10 (11)	19 (20)	23 (20)	22 (21)	24 (26)	29 (26)	127 (124)
3 月	12 (12)	19 (20)	23 (20)	22 (21)	24 (27)	29 (26)	129 (126)

（ ）内は令和 2 年度児童数

（2）年間入退園児童数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	24	0	0	1	1	4	0	2	0	1	0	0	33
退園	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	4

（3）職員数

令和 4 年 3 月現在

園 長	1 名（常勤）
副園長	1 名（常勤）
保育士	27 名（常勤 18 名、非常勤 9 名）（前年比＋2 名）
調理員（栄養士除く）	4 名（常勤 2 名、非常勤 2 名）
看護師	2 名（常勤 1 名、非常勤 1 名）（常勤前年比＋1 名）
栄養士	1 名（常勤）
事務員	1 名（常勤）
その他	子育て支援員 3 名（非常勤）保育補助 1 名（非常勤）
計	41 名（前年比＋3 名）

3 保育内容

【保育理念】

自然豊かな地域の温かい環境に守られ、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉の増進を支えます。

一人一人の子どもの幸せのために保護者及び家庭、地域社会と手を結び、すべてにおいて気くばり、心くばり、目くばりの「心」ある保育の増進に努めます。

平成 16 年 4 月 1 日

保育理念、保育目標に基づき、保育全体計画、保育年間計画を作成し、個々の発達を大切にした保育を実践しました。

- ① “遊ぶ力” の獲得を目指す取り組みを実施
- ② 人として生きる力の基礎を培う取り組みを実施。
- ③ 集団の中で個々が育ち合う取り組みを実施。
- ④ 絵本による豊かな心情作りを実施
- ⑤ 畑での野菜の栽培を実施
- ⑥ 稲作体験・味噌作り体験の実施



室内で友だちとゲームを楽しみました



快晴の春、園周辺を散歩しました



春に苗を植えた“ジャガイモ”の収穫です



運動会

年長児 みんなで息を合わせたバルーン競技



運動会

年長児恒例ランドセルリレー



たくさん雪が積もった築山で遊びました



新里さんの農園で栗拾い。
初めて栗を拾った子もいました。

4 特別保育実施状況

(1) 延長保育

在園児を対象に月曜日から土曜日まで開設時間を延長し、保育を実施しました。

- ・時 間 午後 6 時～7 時
- ・利用者 日単位利用登録延べ人数 27 名、利用延べ人数 234 名
月単位利用登録延べ人数 8 名、利用延べ人数 835 名（年間）

(2) 一時保育

満 1 歳以上の町内在住幼児を対象に、月曜日から土曜日まで時間単位での預かり保育を実施しました。

- ・時 間 午前 8 時～午後 6 時
- ・利用者 108 名

年 度	28 年度	29 年度	30 年度	令元年度	令 2 年度	令 3 年度
利用人数	374	166	149	232	16	108

(3) 休日保育

満1歳以上の在園児を対象に日曜日、祝日、年末に保育を実施しました。

- ・時 間 午前8時30分～午後5時
- ・利用者 51名

年 度	28年度	29年度	30年度	令元年度	令2年度	令3年度
利用人数	127	200	168	124	64	51

5 防災訓練実施状況

災害発生時に備え、職員、在園児、子育て支援センター利用者、一時保育利用児の全員を対象に訓練を実施し、災害時の対応について啓発活動を行いました。

- ・定期訓練 毎月1回（消防署指導1回）
- ・土曜日訓練 年3回
- ・定期救命講習の受講

月日 時間	設定	子どもの動き	避難場所	職員の訓練や学習内容
4/20 10:00	指導	・非常ベルを聞く ・合図を聞いて保育者の所に集まる	遊戯室	・避難経路、役割分担を話し合う。 ・消火器設置場所確認
5/25 10:00	火災 調理室	・保育者に指示に従い避難場所に移動する。	第1避難場所（園庭東側）	・乳児の避難方法を話し合う。 ・消火器の使用法確認 ・防災教材による啓発
6/29 17:00	火災隣 接家屋	・保育者の指示に従い避難場所に移動する	第2避難場所 隣接小学校 校庭	・園周辺の避難場所を確認する。 ・降園時間帯の安全な避難方法を確認。
7/28 9:45	地震 火災	・3つの約束を身に付ける（夏の安全な遊びについて知る） 消防署員立ち合い 防災設備管理会社立ち合い	第1避難所	・非常持ち出し用品の点検。 ・避難所への速やかな誘導方法の確認。 ・消火器の使用法を知る。 ・通報訓練（火災発生） ・消火栓使用法について、指導、訓練を受ける。
8/26 9:45	台風 水害	・身支度をし、保育者の傍に集まる。 ・台風の視聴覚教材を見て水害時の避難について知る	第一避難所	・台風による被害状況を全体に伝え、園の対処方法を園内に周知する。 ・水害の場合の各家庭への連絡方法を確認する。 ・近隣の冠水等により児童の送迎が困難な場合の対策を考える。

9/28 16:00	水害	・放送を聞き慌てずに保育者の傍に集まる。	各保育室	・近隣が浸水し、園児の送迎が不可能、あるいは未定の場合を想定した対応を行う。 ・日常における非常持ち出し用品の点検を行う。
11/5 10:10	不審者	・保育者の側に集まる。指示に従い行動する。 ・駐在所、生活安全課の協力と立ち合いにより行う。	保育室	・不審者に気付き、園児を安全に避難させる。 ・職員相互の連携により不審者に対応する。 ・対応について、生活安全課職員よりアドバイスをいただきながら気づきを話し合う。
12/23 11:45	火災 給食室	・食事を中断し、椅子を机の下に入れて保育者の指示に従う。	保育室各避難口	・職員にも予告なしの訓練。 ・予期しない事態にどう対応するか。反省を今後に活かす。 ・冬季における避難について再度確認を行う。
1/27 14:45	地震	・落ち着いて指示を聞き避難する。	保育室	・冬場の避難路は常に確保されているか確認する。 ・午睡時の避難方法を職員で確認し合う。
2/22 9:45	火災 南側隣家	・放送機器が使えないとき時の避難を経験する。	保育室	・避難路の確保がなされているか確認。 ・消火栓周辺の除雪状況の確認。 ・放送機器故障の場合の園内への周知方法の確認。
3/24 16:00	地震	・地震と火災の違いを知り安全に避難する方法をみんなです話し合い、1年の反省を行う。	遊戯室	・1年間の反省を次年度計画へ活かすよう、意見を出し合う。

6 給食実施状況

(1) 給食実施結果

厚生労働省が示す食事摂取基準に基づき乳幼児にとって適切な給与栄養量を確保できるよう、子どもの発育、発達状況、家庭環境、栄養状態を考慮しながら年間の食育計画を立案しました。また0歳児については、入園時点での月齢を基準とし、家庭と連絡を取りながら個々の成長に合わせた離乳食を進めました。

(2) 食育啓発活動

- ①献立表の配布
- ②給食サンプルの展示
- ③誕生会昼食会
- ④食事マナーの習得
- ⑤地産地消の推進
- ⑥調理の取り組み
- ⑦アレルギー除去食の提供
- ⑧おやつタイムの開催
- ⑨歯科指導（令和3年6月21日実施）



手作りおやつ“ポットパイシチュー”です

(3) 衛生管理

- ①給食安全管理に基づいた安全な調理の実施
- ②職員細菌検査の実施
4月（全職員）毎月（給食従事者、0歳児担任）ノロウイルス（給食従事者）
- ③新型コロナウイルス感染症対策の実施（コロナワクチン接種3回、マスク着用）
玄関での児童の送迎、検温、体調観察、職員の検温、保育室内の消毒を行いました。
- ④健康に関する情報（保健だより）の発行を行いました。



5歳児（年長児）クラス
田植え体験から、成長観察、刈り取り見学をした「米」が白いご飯になるまでを
田んぼ体験をさせていただいた新里さんに
教えていただきました。

新米を自分たちで研いで、ぬか釜で炊いて
食べました



7 保護者との連携

(1) 父母の会

新型コロナ禍における園行事の開催について、父母の会会長と相談し、感染対策を行いながら、各行事を実施しました。

(2) 保護者

- ①令和2年度からの玄関先での送迎への協力、感染に関連する事象が発生した場合における対策についての理解と協力をしてくださることにより、保育を継続することができました。

②個別面談を実施し、お子さんの保育園での様子や家庭での様子、心配事や保育園への希望などいつもの送迎では中々できない話をする機会を作りました。

コロナ感染症拡大の影響で0歳児、1歳児は、令和4年度に延期しました。

8 地域交流

(1) 異世代間交流

虹の保育園地域子育て支援センター高齢者クラブ（そよかぜクラブ）との交流畑での野菜作りを通して、苗の定植、収穫の際の交流を行いました。

(2) 関係団体との交流

①近隣老人施設入所者と手作りプレゼントの交換を行いました。（七夕、クリスマス）

②近隣地区老人クラブさんに園舎中庭や野菜畑の整備を行っていただきました。

（令和3年4月22日、10月20日）



(3) 普及、啓発活動

①園行事の様子を社協広報に掲載しました。

②保育の様子、行事等を園だよりで伝えました

③園内に入ることができない状況の中、玄関に園児が描いた絵や作品、保育の様子（ドキュメンテーション）を掲示し、保育の様子を伝える試みを行いました。

④社協フェイスブックに園の様子を掲載しました。

⑤健康及び感染症に関する保健だよりを発行しました。

⑥給食だより、献立表を発行しました。

9 卒園児就学予定小学校との連携

①児童の就学予定校との申し送りを行いました。（町内小学校3校、町外小学校1校）

②保育所児童保育要録（平成29年全部改正、平成30年4月施行保育所指針に則る）を児童の就学校へ送付しました。

10 諸会議の開催及び参加

(1) 職員会議

①職員全体会議、組リーダー会議（毎月1回）

②給食担当者会議、乳児部、幼児部リーダー会議

③乳幼児部連絡会議の開催（隔週）

(2) 関係機関の会議への参加

①紫波町福祉相談窓口連携会議

②紫波町幼児教育連絡会

③西の杜学園学校運営協議会

1 1 視察、実習生の受け入れ

保育実習生 2校 2名

1 2 職員研修の実施

(1) 園内研修の実施（職員全体研修）

①コロナ禍における感染予防法・保育室内点検・保育内容見直し（令和3年10月29日）

②不審者対策訓練を終えての反省及び防犯対策について（令和3年12月3日）

(2) 保育士キャリアアップ研修の受講

①前期 障がい児保育（2名） 食育アレルギー（2名） 幼児保育（2名）
保健衛生（2名） マネジメント（2名） 乳児保育（2名） 計12名

②後期 オンライン研修

障がい児保育（2名） 食育アレルギー（3名） 保健衛生（3名）

保護者支援（3名） マネジメント（4名） 計15名

(3) その他外部研修

①新人保育者スタートアップセミナー（5月21, 28日オンライン研修2名）

②読書ボランティア研修（滝沢市12月2日）1名

③精神保健研修（紫波町役場1月14日）1名

1 3 苦情・相談の受付

(1) 苦情… 0件

(2) 相談…コロナ感染症関連5件、家庭関係1件

1 4 事故・ヒヤリハット報告

(1) 事故…10件

対象 児童	月 日	内 容	園の対応
①5歳児 男児	令和3年 5月18日 8:50	登園後、保育室で本児が自分の荷物を所定の位置に片づけていた時、カバンかけの周囲を走り回り、転倒、床に顔をぶつけてしまう。右鼻腔と右上前歯の歯茎より出血。	看護師により、患部を圧迫止血。右上前歯のぐらつきがあったため、保護者に連絡をし、受診を依頼。 転倒した際の打撲により前歯のぐらつき有。要経過観察。
②1歳児 女児	令和3年 5月20日 14:50	午睡後、他児より早く目覚めたため、乳児用移動車で園舎内を散歩していた際に、車内で本児がジャンプを繰り返していたところ、着地に失敗し、	・出血箇所を確認。 止血後、口の中を確認。 上前歯茎部のからの出血有。 本児が泣いていたため、抱っこし、落ち着くのを待つ。

		車の手すりに上前歯があたり、激しく泣く。 上前歯から出血。	午後のおやつを食べる際に再度泣いたため、口内を確認、出血有。園長、副園長は会議で外出していたため、電話で報告。保護者へ連絡。受診を依頼したが、当日は休診日であったため、自宅で様子を観察することとなった。
③3歳児 女児	令和3年 6月16日 12:25	給食後、テラスでパジャマへの着替えをし、ブロック人形遊び等をしていた時、雷が鳴りだし、保育室へと移動し、室内遊びを始めていた時、本児が床でつまずき転倒。その際に顔を床にぶつけ、前歯から出血し、激しく泣く。	・すぐにうがいをし、歯の状態を確認。 すぐに看護師により止血の処置を行う。本児の動揺が激しかったのでしばらく見守り落ち着くのを待つ。 医務室に連れていく際に、園長、副園長、主任に状況を報告。 保護者に連絡、状況を説明し、受診を依頼する。前歯2本にぐらつき有。経過観察の診断。
④2歳児 男児	令和3年 6月22日 10:15	保育室でままごと遊びをしていた時、本児が隣で遊んでいた子のおもちゃをとろうとした。他の場所にもあるものであったので、保育士が本児の手を取りそちらへ行こうと促した際に嫌がってしゃがみ込んでしまった時「痛い」と言い手を動かさなくなってしまった。	看護師が他の業務を行っていたため、副園長が本児の様子を見守る。業務を終えた看護師が患部を診る。受診が必要と判断。保護者に連絡をし状況を伝え、受診を依頼。保護者が来園するまで、医務室にて様子を見守る。その後痛みが和らいできたのか保護者が園に到着した時には、左手を使って遊ぶことができるようになっていた。痛みはないようであったが、念のために受診をお願いした。脱臼はしていないとの診断。
⑤1歳児 女児	令和3年 7月7日 8:00	朝の登園受け入れの時間帯。受け入れのための合同保育室から1歳児保育室に移動したとき、保育室内を走り回って、足を滑らせ転倒。上下の唇と鼻から出血。	泣いている本児を落ち着かせ、止血をする。傷口と歯の状況を確認する。 看護師が出勤前であったため、担任が保護者へ連絡、状況について説明。看護師が出勤後再度確認をし、連絡をすると伝えた。看護師が出勤し、患部を確認し保護者へ連絡をした。 経過を観察し、腫れや出血が顕著になってきた場合には連絡をしてほしいとのことだった。

⑥0歳児 女児	令和3年 8月18日 10:30	遊戯室で1歳児クラスの子どもと遊んでいたところ、本児を抱っこしていた保育士が他児の危険な行動を注意しようと声をかけるため、本児から目を離した時、膝から離れて立ち上がっていた本児が下がってきて再度保育士の膝に座ろうとしてバランスを崩し、転倒、側頭部を床にぶつけてしまう。	抱っこしていた保育士がすぐに患部を確認したところ、外傷は認められなかった。本児がなかなか泣き止まないため、別の保育士が本児を保育室に連れて戻り、保育室にいた別の保育士に預け、休ませようとした時本児が嘔吐した。 看護師が本件を聞き、当該児を見たところ、本児は泣いており朝食に摂取したと思われる食材が混入した嘔吐物を確認。 体調も不良であったとのことであったが、頭部を強く打ったことから受診の必要性ありと判断。保護者へ連絡し事故の状況を説明、受診の依頼をした上で、医務室において看護師が本児の状態を観察しながら保護者の迎えを待つこととした。 診断の結果は、咳からの嘔吐頭打撲が原因ではないとのこと。
⑦1歳児 女児	令和3年 10月20日 10:10	園庭の乳児用遊具であるそんではいた時。本児がフラフープを握ったまま滑り台をしたから登ろうとしたところ、躓き転倒。両手がフラフープでふさがっていたため、滑り台に顔面を打ち付け、口内から出血。	事故直後、看護師が止血、患部を確認。上唇小帯が切れており、出血。その他上下の唇も切れ出血。 受診を依頼。 歯科受診。診断の結果は口唇裂傷。
⑧3歳児 女児	令和3年 12月8日 11:50	給食の時間。当該児童がアレルギー反応をおこすかもしれない食材を含んだデザート（桃ゼリー）を誤って提供してしまった。	担任が気づき、給食室に確認。 園長、栄養士、担任で児童に発疹、喉の痛み等がないか確認する。児童に抗アレルギー薬を服用させると同時に、栄養士が保護者へ連絡、報告。今回は食材が加熱された状態での提供であったために児童に症状は現れずにすんだ。給食担当者と担任、園長を含め職員間で本児の生活管理指導票を確認した。

⑨1歳児 女児	令和3年 12月8日 11:00	午前の中心活動中、遊戯室でマットを使って遊んでいた時間。本児が両手をマットにつき動かない状態になっていた。 本児の目はひらいているものの眼球が右上転し、意識消失の状態。	本児の異変に気付いた担任が抱き上げると全身脱力している。体が熱い状況。クラスリーダーの指示によりすぐ事務室に連れていき、状況の伝達。 119番通報。 救急車が到着するまで、職員と看護師が本児の状態について、発作発症の時刻、発作継続時間の測定、血中酸素濃度測定をし、記録。救急車要請とともに保護者への連絡を行う。 同時に救急車受け入れ準備。 救急車が来ることを園内全職員へ伝達。 保護者は工作中であり、直ぐに園に向かうことが困難であったため、看護師が付き添うこととした。救急車到着し、看護師が付き添い搬送。 搬送先病院にて保護者と合流し診察、検査。熱性痙攣との診断。本児は当日中に帰宅。
⑩5歳児 男児	令和3年 12月16日 10:20	12月の誕生会を開いている最中。年長児クラスは自分の椅子に腰かけ、誕生会の催しを観ていた。その際自分の膝を抱え込んで不安定な状態で座っていた為、バランスを崩し、前方に落下。とっさに手をつくことができず、顔面を床に殴打。担任が駆け寄ると本児は鼻から出血し泣いていた。	担任は本児に声をかけながら、止血。直ぐに医務室に本児を運ぶ。看護師により止血の継続と患部の確認。両鼻、下唇の止血。口腔内の確認。下前歯のぐらつき有。口腔内を洗浄し、本児の様子を保護者へ連絡。 受診の依頼をしたが、保護者が仕事をぬけられないとのことで、看護師、園長で本児を嘱託歯科医へ連絡の上、搬送し、受診。その後保護者が合流。永久歯であることからしばらくの間経過観察となった。

(2) ヒヤリハット報告…11件

対象児童	月日・時刻	状況と対応	改善対策
①5歳児 女児	令和3年 4月28日 16:00	16:00の迎えに合わせて支度をし、同じ時刻に迎えの他女児とともに園舎玄関近くの読書スペースで待つ	迎えを待つ子どもを保育室で待機させ、職員の目が届くようにする。迎えの知らせについては、園内放送や内線電話等で連絡し、子どもを確実に且つ

		いた時、本児が一人で玄関を出て施錠されている外フェンスの前にいるところを、ちょうど迎えに来ていた祖父が見つけた。	安全に降園させるようにする。
②給食調理	令和3年 5月13日 10:30	給食調理室内、調理オープンで最上段にアレルギー除去食、最下段4段に卵料理を設定し、同時に焼き上げていた。卵の成分が最上段にかからないよう、各天板にはアルミホイルをかぶせていたが、オープン内の風圧でホイルが剥がれオープン内側に卵液が付着してしまった。	除去食に卵液は付着していなかったが、オープン内の高い位置まで卵液が付着していたため、除去食との同時調理は危険があることを確認した。 給食の際にクラス担任に説明し、様子観察を依頼し、該当児童の保護者には状況説明をし、今後の対策を説明した。 今後、除去食がある場合は、時間差で調理を行い、アレルゲンが交差しないよう徹底することとした。
③給食調理	令和3年 5月14日 11:15	給食の澄まし汁の中に入っていた硬いものに1歳児の子どもが気づき”先生ごみ“と言って渡してきたと、担任が給食室に知らせた。	当日調理に使用したえのきだけの石つき部分であったようであるが、乳児は気づかず食べてしまうこともあるため、今後同様の事象が起こった際、有害なものもありうるため、異物混入として留意するよう注意喚起を調理室だけでなく、園全体の職員で状況を共有した。
④給食調理	令和3年 5月18日 9:30	献立の和え物に使用するすのめ原材料に「乳糖」が含まれていることに気づき、製造元に問い合わせ、その乳糖が牛乳由来であることを確認。牛乳アレルギー対象児の和え物の材料を急遽変更した。幸い、これまで利用し、対象児童にアレルギー反応は出現していなかったが、使用していた事実について、保護者に説明し、謝罪をした。	給食材料に含まれている成分については、表示をすべて給食職員複数により確認をする。 給食調理室において、ヒヤリハットが続くということは、普段の業務のどこかに足りないものがあるということ、特にもアレルギーについては子どもの命に危険が及ぶということを重く受け止め、今後の業務に活かしていかなければならないと調理職員だけでなく保育においても必要であることを職員会議の場で伝えた。

⑤1 歳児 女児	令和 3 年 5 月 21 日 7 : 30	朝の登園受け入れ時間帯。 本児が左手にお菓子を持っていることに気づき、母親にそれを返し、見送った後抱っこしていたが、10 分後右手にも持っている事に他の職員が気づき、副園長に報告。卵アレルギーの対象児もいることから、お菓子を取り除き、本児の手を洗い、衣服を取り換えた。	登園時に、保護者から子どもを受け取る際には、一部分だけではなく、保護者とともに全身を視診することが必要。 アレルギー対象児がいることを常に意識していくことを職員全体で確認する。
⑥0 歳児 男児	令和 3 年 6 月 3 日 15 : 10	午睡後、保育士 2 名で 4 名の乳児のおむつ交換を行い、午後のおやつの準備をしていた時、乳児 1 名がいないことに気づき、隣室を確認したが見当たらず、廊下に出て探していると幼児部の保育士が廊下で見かけた本児を連れてきた。	おむつ替えの際、隣室との扉は開放していたので、注視していたが、廊下に面する扉の施錠を確認していなかったことから本児が廊下に出ていったものと推測された。 本児については、外傷等確認を行い、無事であった。 施錠忘れという単純な原因であるが、大事故を招きかねない事象である為、今後職員間での安全確認を十分に行っていくこと、またいかなる場合においても児童から目を離さず、人数確認を随時行っていくことを再度確認した。
⑦1 歳児 女児	令和 3 年 6 月 2 9 日 10 : 50	外遊び後、入室した際、靴下帽子を片付ける子、おむつ交換をする子、昼で寝転がる子など様々な動きをする子供たちに、それぞれ職員がついていた。片付けが終わり、トイレに促されたが、各自の水筒が置かれている棚の前に行き、そこから出ていた水筒の紐をひっぱり水筒が落下した際に顔面にあたった。	すぐに視診したが、出血はなく驚いて泣いている本児を抱っこし、落ち着くのを待った。 その後、泣き止み、給食の時に顔を確認すると鼻が赤くなっていた。冷却シートで冷やそうとしたが、嫌がったため無理はせず、様子を観察。 各自持参する水筒については紐を外すようにする。また使用後は都度、水筒用の保管かごに収納する。

⑧1 歳児 男児 2 名	令和 3 年 8 月 30 日 11 : 40	給食後、保育室を片付け、 清掃を行っている時間帯 で、午睡の準備ができるま で廊下でパズル等をして遊 んでいた時、一つのパズル をめぐる男児 2 名が争い、 保育士が仲立ちするも互い に譲らず、一人がもう一人 の上に覆いかぶさり、腕に 噛みついた。	保育士がかまれた子の身体を確認した ところ、両腕の 3 か所に噛まれた跡が 残っていた。 直ぐに冷却シートで冷やした。 降園の際に保護者に報告。 食事後のだんだんと眠くなる時間帯で あり、子どもから目を離さないように すること、玩具の設定を子どもの様子 に合わせて行うことを再確認した。
⑨1 歳児 女児	令和 3 年 9 月 24 日 9 : 45	運動会ごっこの練習後、水 分補給を行った子から外遊 びに向かう為、靴下や帽子 の着用など準備をしていた 時、ダンスの練習で使用し た CD プレイヤーが気にな り、コンセントを引っ張っ たところプレイヤーが柵か ら落下した。	保育士たちは、子どもたちの水分補給 や帽子、靴下の準備についていた為、 コンセントが入ったままになってい た。 私用した CD プレイヤーは子供の手が 届かない場所に設定。コンセントには カバーをつけ、延長コードを壁につた わせ、コード等に子どもの手が届かな いよう配慮した。
⑩1 歳児 女児	令和 3 年 10 月 26 日 9 : 00	午前のおやつ準備のため。 1 歳児 19 名が椅子に座り、 水分をとったり、エプロン をつけたり、席につかず走 り回る子どもがいる時間。 本児が姿勢を崩し、椅子の ひじ掛けの隙間に足首を挟 んでしまった。 保育士が引き抜こうとする もなかなか抜くことができ ず、園長と看護師を呼び、 抜いた。その後、本児の足 の状態を看護師が確認。外 傷等はなく様子について経 過観察することとした。	1 歳児が着席し静かに待つことは難し いことから絵本をテーブルに置き、待 てられるような環境作りをしてい く。 又、同じ 1 歳児であっても、個々に体 格差があるため、それぞれに合った机、 椅子などを使用することが必要であると 職員間で確認した。
⑪5 歳児 男児	令和 3 年 12 月 8 日 9 : 00	朝の幼児部の集まりを終 え、トイレを済ませている 時間、保育士が本児の頬の 傷に気づき状況を尋ねた。	本来、頭を入れるような場所ではない が、子どもが想定外の行動をとること を予測し、日常利用するものについて も安全点検を行う必要性を職員間で共

		本児によるとクラスで使用している独立型のカバンかけの隙間に頭を入れたと話す。カバンかけを確認するとその隙間から固定用のネジがむき出しの状態になっていた。 本児の頬の傷については、看護師により処置し、降園時に保護者へ状況説明と謝罪をした。	有した。 その他同型のカバンかけについても、点検し、危険個所の改修を行った。 又、今回の例を、保育士により他の子どもたちにも知らせ、身の回りの物の使い方や安全について、話をした。
--	--	--	--

令和 3 年度

地域子育て支援センター事業報告書

令和 3 年度は、地域子育て支援の拠点としてコロナ感染症対策を講じながら、子育て中の親子の居場所の提供を行いました。感染拡大の影響で思うように行動ができない状況ではありましたが、親子で安心して利用できる場所、今、心配な想いを話することができる場所としての活動をすすめてまいりました。

1. 子育て親子の交流の提供と交流の促進

就学前の在宅の親子を対象に、子育て不安の解消や保護者同士の交流の場を提供しました。

(1) 赤ちゃん広場

- ・実施日 毎週火曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳未満の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども 73 名、母 73 名、父 1 名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごすことを中心とし、母親同士の交流の場を図る。
保育士による手あそび、親子のスキンシップ、触れ合い遊び
絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。

(2) ぴよぴよ・わくわく広場

- ・実施日 毎月木曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳から3歳くらいまでの就園前の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども 62 名、母 56 名、父 1 名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごししながら子ども同士でのあそびを楽しむとともに親同士の交流を図る。
保育士による手あそびや歌あそび、乳幼児向けの体操や絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。

(3) キッズガーデン

- ・実施日 毎月第4月曜日 10:00～12:00 4回/年開催
- ・対象 0歳から就園前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども 5 名、母 5 名
- ・内容 水分児童館園庭をお借りし親子で遊んだり園周辺の散歩。

(4) 親子の広場

- ・実施日 毎週月曜～金曜日 12:00～16:00
毎週土曜日 9:30～15:00
- ・対象 0歳から就学前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども53名、母38名、父1名
- ・内容 親子でゆっくりとあそぶことができ、時間内であれば自由に立ち寄る場所として開放する。

2. 子育て等に関する相談・援助の実施

- ・実施日 毎週月～金曜日 9:00～17:00
毎週土曜日 10:00～15:00
- ・対象 子育て中の親またはその関係者
- ・内容 来園または電話による相談
園の看護師、栄養士、重点的な支援が必要と判断された親子（家庭）については町内支援センター、保健師、役場担当課との連携と協働をはかりながら対応。

・相談実績

相談内容	件数
基本的生活習慣	4
発達・発育	4
しつけ育児	4
医学的問題	2
行政・保育所・幼稚園	3
一時保育	3
その他	2
合 計	22

3. 地域の子育て関連情報の提供

子育て中の親子が必要とする身近な地域の子育てについての様々な情報を提供しました。

- ・しわっせ、子育て支援ひろば同士、情報の交換・連絡・共有をし、広場開設時に利用者に提供。
- ・園の看護師、栄養士の専門知識を広場開設時に提供。
- ・センター通信の発行。（センター予定表・子育て情報各1回／月）
- ・地域の方々にもセンターの情報を知っていただくためにセンター予定表を配布。
（志和公民館、水分公民館、社会福祉協議会等）
- ・保健師による産後1ヶ月訪問時に子育て支援センターパンフレットを提供。

4. 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・ 広場開設時における親子体操、絵本の読み聞かせ、製作等の実施 各 8 回／月程度
- ・ 外部現役助産師を招いての、授乳、育児についての相談の場の提供。1 回開催

5. 地域支援活動の実施

(1) 子育て支援ひろば（にこにこ広場と合同）

- ・ 実 施 日 9 回／年 延べ参加人数 子ども 63 名、大人 61 名
- ・ 対 象 0 歳から就園前の子どもとその保護者
- ・ 内 容 にこにこひろばへ出向き、親子に遊び方を提供、又は託児。

6. 世代間交流

(1) 高齢者ボランティア[そよかぜクラブ]の開催

支援センターを拠点とし、地域の高齢者と在園児との交流を実施しました。

- ・ 実 施 日 毎週金曜日 9：00～12：00
- ・ 対 象 者 保育園近隣在住の高齢者
- ・ 内 容 園や支援センターの畑づくり、乳児用エプロン作り
運動会のメダル作り、卒園児のコサージュ作り
- ・ 登 録 者 数 8 名（延べ参加人数 136 名）



手作りの乳児用エプロンは好評で、在園児以外の方にもご利用いただいています。



園児とサツマイモの苗を定植しました

(2) 卒園児との交流（ホームカミングデー）

卒園後の子どもたちの見守りの試みとして計画をたてましたが、コロナ感染症対策のため、昨年度同様、開催を見合わせました。

7. 特別支援活動（たんぽぽルーム）

特別な支援が必要な子どもを含め、すべての子またはその保護者が集う場としての計画をしましたが、コロナウイルス感染症の拡大により、開催には至りませんでした。

＊コロナウイルス感染拡大への懸念から、実施に至らなかった事業については、今後、地域の状況を見極めながら再開を目指していきます。

令和3年度

けやき学園 事業報告書

障がいのある方への生産活動の場の提供と生活介護事業を展開し、個々の能力を引き出すことを目標に、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、利用者お一人おひとりの適性・特性に応じて次のような事業を実施しました。

1 事業所運営に関すること

(1) 利用登録者数について

- ・利用定員 50名（就労継続支援B型事業44名、生活介護事業6名）
- ・当期末登録者数 44名（B型37名、生活介護7名。男性21名、女性23名）
（紫波町37名、矢巾町2名、花巻市5名）
- ・平均年齢 41.4歳（男性40.4歳、女性42.3歳）

(2) 開所日数

- ・年間開所日数 240日（前年度と同）
- ・月平均開所日数 20日

(3) 利用者数

- ・年間延べ利用者数 9,170名（前年度より453名増）
- ・1日の平均利用者数 38.2名（前年度より2名増）

(4) 職員体制について

- ・常勤職員 13名
- ・パート職員 1名

(5) 事業稼動について

- ・生産活動の機会を提供する就労継続事業、訓練作業や情操活動等を取り入れた生活介護事業において、利用者個々の適性と特性に合わせた支援に努めました。

(6) 運営費（自立支援給付費）収入 78,275,600円（前年度比+4,647,390円）

【対予算達成率 100.4%】

2 利用者支援に関すること

(1) 個別支援計画の作成および記録の整備について

- ・ご本人の意向を尊重し、支援計画書を前後期2回作成し、適正な支援に努めました。
- ・利用者個々の日常に関する記録（ケース記録）の整備に努めました。

(2) 生産活動において、個々に応じた適正作業に結びつけられるよう支援に努め、新規の作業種を導入したこともあり、下記の結果となりました。

印刷科	3,207,722円	手拭、タオル、Tシャツ、ジャンパー等の印刷 （前年度より5,082円減）
障子襖科	2,958,070円	障子、ふすま及び網戸の張り替え （前年度比+482,128円）

受 託 科	1,561,453 円	調味料容器のキャップ締め、菓子袋のシール貼り、部品組立、廃プラスチックリサイクル、花植えプランター他 (前年度より 167,582 円増) 参考) キャップ回収量 2720 kg (前年度 4,329 kg)
計	7,727,245 円	(前年度比+644,628 円) 【対予算達成率 96.6%】

①利用者への工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 4,401,840 円 (前年度比+334,960 円)

【対当初予算達成率 104.8%】

- ・一人当たり月平均支給額 9,507 円 (前年度比+429 円)

(3) 生活介護事業について

- ・ウォーキングや創作活動を中心に意欲的に活動参加できるよう、家庭連絡及び職員間で連携を図りながら実施しました。

(4) 給食提供と健康支援について

- ・体重測定と嗜好調査を行い、健康支援と昼食メニューに反映させました。
- ・国内及び地元産の食材使用を基本に、刻み食やおかゆ食、アレルギー除去、病人食など（毎食対応 18 名）、体調と病状に合わせた食事提供を行いました。
- ・食事介助を要する方への個別対応や誤嚥防止対策、食事場所を 3 ヶ所とし、座席間隔を取ることやアクリル板を設置するなどのコロナ感染防止の対策を取りました。
- ・利用者希望メニュー 70 回、郷土料理 44 回を提供しました。
- ・嘱託医による健康診断とインフルエンザ予防の集団接種を実施しました。
- ・家庭での通院対応が困難な利用者への通院付添を行い、病状把握に努めました。

(5) 行事、クラブ活動等について

①行事等

- ・クラブ活動を含めて例年実施している行事は新型コロナウイルス感染症対策により、実施できませんでしたが、小グループでの花見会や散策などを実施しました。

②インターネット閲覧の日を週 2 回設定しました。

③花壇の花植えや作業合間でのウォーキングなどの活動、施設内装飾づくりなどを適宜取り入れました。

- (6) 本人活動・自治会活動への支援については、日常での改善点などを会議や係活動を通して意向を取り入れるよう努めました。

3 その他の事業・活動について

- (1) 苦情及び相談業務においては、職員間の共有と迅速な対処および改善に努めました。
- (2) 当社協 S D G s (持続可能な開発目標) 宣言を意識した取り組みを実施しました。
- (3) 学校機関からの体験・実習の受け入れ 2 名 (1 機関)

令和3年度

さくら製作所 事業報告書

障がいのある方が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会・生産活動その他活動の機会を提供し、知識及び能力の向上に必要な訓練等を適切かつ効果的に行うことを目的に、各種事業を実施した。

1 事業所運営に関すること

- (1) 利用登録者数について 定員 20 名
- ①当期末 登録者数 19 名（男性 5 名、女性 14 名）
（紫波町 14 名、矢巾町 4 名、花巻市 1 名）
- ・平均年齢 46.1 歳（前年度比+2.5 歳）
- ②年間の移動状況（新規利用者 1 名・就労及び他施設者数 1 名・退所者数 1 名）
- (2) 事業所開設日数
- ①年間延べ開所日数 238 日（前年度比△3 日）
- ②月平均開所日数 19.8 日（前年度比△0.2 日）
- (3) 利用者数
- ①年間延べ利用者数 3,654 名（前年度比+315 名）
- ②1 日の平均利用者数 15.4 名（前年度比+1.6 名）
- (4) 職員体制
- ①常勤職員 3 名
- ②パート職員 4 名
- (5) 運営管理について
- ①関連機関との連絡調整会議等参加（支援会議等） 40 回
- ②県内外研修会参加 2 回
- ③避難・防火訓練実施 2 回
- (6) 運営費（自立支援給付費）収入 30,302,694 円（前年度比+3,742,614 円）

2 利用者支援に関すること

(1) 個別支援計画（日常生活・就労支援他）の作成

定期面談を実施し、個人ごとに本人の意向を重視した支援計画の作成に努めました。

(2) 生産活動において、個々の能力に応じた適性作業に結びつけられるよう支援に努め、下記の結果となりました。

区 分	総売上高	作 業 内 容
受注作業部	1,757,852 円	返礼品箱詰め作業、調味料のミニボトルのキャップ、工業関係部品の組立、フルーツキャップ他 （前年度比+308,868 円）

外販促進部	91,890 円	さくら製作所施設内において、休憩時間を利用して、コーヒー・お茶等の提供活動他 (前年度比+9,170 円)
就労促進部	2,537,007 円	メール便の配達他 (前年度比+278,137 円)
計	4,386,749 円	(前年度比+596,175 円)

(3) 利用者工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 3,693,656 円 (前年度比+368,231 円)
- ・一人当たり月平均支給額 16,271 円 (前年度比+947 円)

(4) 一般就労の推進

就労希望者に対して、ハローワークや就労支援に関わる関係機関と連携し、就労に向けた支援を実施した。

- ①令和3年度の一般就労者数 0 名

(5) 嘱託医による健康診断の実施

①実施回数

- ・健康診断 2 回
- ・予防接種を集団で実施
 - インフルエンザワクチン 1 回
 - コロナワクチン 3 回

(6) 行事・余暇活動

- ①行事 2 回

・日帰り旅行（雫石方面）・リフレッシュ教室を実施（参加）した。

- ②施設内行事 5 回

・季節行事（節分・ひな祭り等）として食事会を実施した。

3 その他の事業・活動に関すること

(1) 送迎サービス

- ①送迎サービス利用者数（当期末現在） 17 名

(2) 苦情解決

当事者等からの苦情（不安や悩みを含む）があった場合、適切に対応し今後の事業所運営に反映させる体制の整備に努めた。

- ①苦情受付件数 0 件
- ②その他相談受付件数（コミュニケーションに関する事） 2 件

(3) 事業所利用体験実習、視察、学生体験実習等の受入

- ①年間事業所見学者数（当事者他） 15 名
- ②年間事業所施設体験・実習者数（当事者） 3 名